

加賀藩御細工所

加賀藩御細工所（おさいくしょ）は 16 世紀後半に設立され、加賀藩（現在の石川県と富山県）が運営していた工芸品製作所である。この工房は、加賀藩の有力者であった前田家の支援を受け、1868 年に閉鎖されるまで、高度な技術を持つ職人や工芸品、装飾品の発展に大きく貢献した。

この工房の本来の目的は、他藩の工房と同様、江戸時代（1603-1867）に先立つ数十年にわたる戦乱の時代に、武器や武具の管理・修理することであった。1615 年に戦いが終わり、安定と平和が訪れたため、武器や防具の製作や修理の必要性が少なくなった。

加賀藩 3 代藩主・前田利常（1594-1658）は、工房を装飾美術・工芸の振興に重点を置くようにした。利常の影響により、工房は正式に「御細工所」（おさいくしょ）となり、金沢の城下町にはさまざまな職人が引き寄せられた。

5 代目加賀藩主・前田綱紀（1643-1724）は、1600 年代に加賀で工芸技術を発展させたことで、多くの功績が認められている。祖父・利常のもとで育った綱紀は、芸術に造詣が深かった。そのため、職人を工房の近くに住まわせ、技術の発展を促した。加賀藩の工房には、それまで家内や企業秘密とされていた漆や絵付け、金工などさまざまな職人が集まり、協力していた。彼らの協力により、加賀の数々の名品が生み出されたのである。綱紀はまた、職人たちが特に質の高いものを作ると報いた。

御細工所の職人の多くは、本業の工芸品に加えて、能楽や茶道など、前田家の好む文化的な分野にも力を注いだ。